

## まだ見ぬまちへ

東日本大震災のあと、何回か被災地、宮城県石巻市に行った。まだ地震と津波の爪跡が残る市役所から門脇小学校を訪れたときのことを鮮明に覚えている。写真の6年半にわたって撮影した長編ドキュメンタリー映画チラシから、「石巻・小さなコミュニティの物語」を紹介したい。

この映画は、地震と津波で壊滅的な被害を受けた、宮城県石巻市門脇・南浜・雲雀野地区の「人とコミュニティの再生」を6年半にわたって記録した作品です。



映画は人びとの、コミュニティづくりのプロセスを見つめます。居住環境が整わない地域の暮らしをどう生きるか？ 高齢者のケアは？ 新しい住民とのコミュニケーションは？ かたちが見えてきたまちへの期待と不安？

映画は、3月11日以前の地域の姿も見つめます。震災前のこのまちにはどんな暮らしがあったのか。住民が紡ぐ“わがまち”の記憶。

本作品は、一被災地の非常時のコミュニティ活動の記録であるとともに、そのテーマは、ふだんの地域社会づくりに通じる普遍性をもっています。

東日本大震災以前の3町は、住宅、商店、小学校、保育所、事業所、病院などが混在するエリアでした。世帯数1772、人口4423人。津波で356人が亡くなり、142人が行方不明です。家屋の大破をまぬがれたのは10世帯のみ。門脇町2丁目～5丁目は土地区画整理事業で「新門脇地区」になります。事業面積23.7ヘクタールの区域に250戸分の宅地が整備され、復興公営住宅151戸と合わせて401世帯、人口1070人が想定されています。南浜町と雲雀野町は居住不可地区となり「石巻南浜津波復興祈念公園」が造られます。地区の東西を走る八間道路は幅37.5m、高さ3.5mの高盛土道路になり、その北側が新門脇地区、南側が復興祈念公園です。



(2018年3月29日)